

「幸せとわの出逢い」を物語る二人。
世界中の愛を集めて、今出発。

新島 宏・敬子

正直、二人まで突直なかっぱルは見たことがない。いい加減で世の中に対して斜に構えながらニヒルな笑いを浮かべる新郎と宏と、反面どう考えても素直でまっすぐにしか生きるひとができない新婦・敬子とは不釣り合いだし、しかし二人は出逢ってから10年以上も経つとも幸せな時間を過ごしている。「彼は『現実』という言葉からはかけ離れているけど、本当に真面目」一尊敬に値するほど、本当に素直、感性の塊、「お互いを尊重しながら、今も夢見る気持ちは今も変わらない。結婚を二人の人生のたっぴひとつのスパイスとして、今後もう一人は一緒に幸せに夢」についていく。



2006年10月4日にフランス・パリにて挙式。いつもの新郎の自分勝手な誘いで、実費での参加となるにも関わらず総勢11名の親族・知人が参加してくれる。

新島 宏・敬子 (Hiroshi, Keiko Niijima)

新島 宏：1978年7月8日大阪生まれ。茨木高校卒業後、1年の浪人生活を経て、大阪大学工学部地球総合工学科土木工学科目へ入学。同大学大学院工学研究科を卒業後、土木を愛しながらも建築家の夢を諦めきれず、なぜか広告代理店の営業職へ就職。現実の新商品広告戦略・企業ミュージアムのプロデュース業務に携わる。「F4(旧：映画研究会)カバーバンド『SPM』、遊び集団「PLAY」、人の幸せを見た!集団「珍味堂」に参加。最近の悩みは「お酒とタバコがやめれない」こと。

新島(旧姓:駒井)敬子。1979年2月16日大阪生まれ。茨木高校を卒業後、関西学院大学文学部仏文科へ入学。LOFT、SONY PLAZA等の生活雑貨ショップを経て、現在フランスの生活雑貨を中心に扱うQuatre Saison Osakaにて販売からディスプレイまで幅広く活躍。「F4(旧:映画研究会)」、遊び集団「PLAY」には、新郎から無理矢理参加させられる。ちなみに、ぼぼぼわした外見とは異なり、新島家では自己管理能力がない新郎をサポートするという一面も見えるしっかも。通称、大蔵大臣。
二人は、晴れて付き合い始めて10年目の2005年3月29日に入籍した。

まあ、自分の結婚式じゃあるまいし、
実費で行くなんておかしいんですよ。

辻 稔也

一級建築士・建築家 hikihappiness project リーダー

そのとき、彼を誘ったのは無力感だった。「パリは逃げへんから今回はあきらめろ」。彼の上司は無表情に言い放った。彼はそれを理不尽だと思った。不条理だと思った。ただ、その一方で、こうなるかもしれないことを予期していた。例えそれが、親友と呼べる友達との結婚式の為であろうとも、このタイミングで自分が1週間も事務所を空ける訳にはいかない、ということとどこかでは悟っていた。ただ、それに気が付かない振りをして、気が付かない振りをして仕事に没頭していた。そうすれば何かが起こってパリに行けるようになるかもしれない。そう思うくらいかもしれない。だが、現実はまだ大きくリアリティを持ってやってくる。彼は泣き泣く、旅行会社にキャンセルの電話をかけた。そして、すねた。

「そして、彼は2月に開催される2人の結婚披露パーティー『愛天プロジェクト』に全力を注ぐことを心に誓ったのだ。果たせなかった約束のため。2人に、言えなかった「おめでとう」を言うために。」



木の家作ってます！

そして、先日は敬子さんの妹の陽子さんの結婚式に、新郎新婦の結婚式に参加できなかった微傷からか、なぜか参加。ピアノを弾かされ、出し物までやらされました。

辻 稔也 (Toshiya Tsuji)

1979年12月22日生まれ。177cm、65〜70kg、O型。神戸生まれの神戸育ち。母親に幼少からピアノ漬けにされるが、音楽を愛しいと思うのはだいぶ後の話である。中高とバスケットボール一筋で過ごし、無計画に入った大学の建築学科で建築にはまってしまう。現在、池田市内の建築設計事務所に勤務しており、次の一手を模索中。新島宏の大学の同期である。が、こうも頻繁に絡むようになったのは大学を卒業してからか？



(写真中央:自分)そんなぼく、D&DEPARTMENT PROJECT っていう活動してます。商売で言えば、インテリアショップで、偉そうに役職なんかもついでて、ショップ事業部ディレクターってやつです。実は偉いさんなんです (笑) 将来は、感動プロデューサーになりたいですね。媒体はなんでもいい。

相馬 夕輝 (Yuki Aima)

相馬夕輝：1980年1月26日最近、兄に産が生まれました。1月14日が誕生日です。ほくは1月26日で、兄が27日。父が31日。運命ですね。狙ったとしか言えません。春頃にあったかくってほじけやったんでしょうかね。。。そんなことはさておき、「目に入れても痛くない」というのは、どうやら本当のことです。短、みゆちゃんです。大好きです。当分自分の子供は要らないくらい。いやー、大人になったもんです。お小遣いあげたくなりませう。ちなみに、みゆちゃんまだ0歳です。そんなみゆちゃんのおじのアイマユウキです。

もう、おっちゃんです。もう、お兄ちゃん卒業ですか？寂しい。でも、みゆちゃんにとっては、おじさんなわけです。まあそれも仕方ありません。どこかで譲るときがやってくる訳ですから。



パリ行ったね。行っちゃいましたね。もっと遊ぼう。もっとね。

相馬 夕輝

D&DEPARTMENT PROJECT ショップディレクション ディレクター

「自分の幸せよりも、相手が幸せそうにしてくれるのが何よりも楽しい」。



有り難いことに時折、以前の仕事で得た職能を活かす機会を頂いてウデを動かしつつ自分の歩んできた道を振り返ってみたいする。「大丈夫。大丈夫。大丈夫。」写真はそんな場面です。(写真左:ある日の池田にて、友人の後ろの髪を切っている姿。/右:スケールブライド模様。)

松田 真実 (Mami Matsuda)

1978年4月18日、鳥取県生まれ。2001年大阪大学基礎工学部を卒業後、株式会社ミルボンに就職。美容室コンサルタントとしての技術、コミュニケーションを身につけ講師活動を展開。日々感じる自己矛盾、衝動と向き合った結果、2006年に退社。2006年春、服飾雑貨 OUL DE PARIS に就職。現在は接客販売の現場で日々活動している。主な活動「スケールブライド」「餃子ナイト」「B3(ごみ)の会」「歌会」など。
趣味：読書、歌、話、ファッションを考えること
特技：頭皮マッサージ
好きな言葉：己に恥える

『おめでとう！！！これからの二人の幸せを心よりお祈りしています。そして、25年後の10月4日、またアメリカンチャーターでロウソクをともしてね。そこでまた、みんなで幸せのお祝いをしようね。いつまでもそんな二人に触れていたいと思っています。』



「ええ、会ったのは二年前です。最近のことなんです。でもね、そんな気がしないんですよ。パリにもね、自分でも不思議なくらい、当然のようについていきました。それが自然だったんです。凄いですよ、彼らは。私の気持ちを波長を要所でほとんど正確に捉えてくれるんです。本人達は自覚していないでしょう。『あんまり仲良くないけど、「ユルい」感じが、なんとなく合うみたいですよ。』(笑)よく言いますよね、でもそんな感じかも、ただ恐らく、本人達が思うよりも私は彼らが好きで、感謝しているんです。それだけのことです。」

2年前のある朝、新町ハウス(相馬、辻が当時住んでいた部屋の通称)。崩れたスーツ姿の彼が居た。その日から始まった、彼らと彼女の歴史は速い。ただいつも、彼女の好きな場所に彼らは居た。彼女の行きたい場所に彼らが居た。だからこうなったのは成り行きで、でも当然のこと。

松田 真実

あんまり仲良くないけど、

「ユルい」感じが、なんとなく合うみたい